宇宙飛行士が撮った母なる地球

著者名	野口聡一	発行年	2010年
出版社名	中央公論新社	ページ数	120ページ
値段	1,900円	ISBN	978-4120041839
コメント	富士山がフジツボみたいっっ！ 誰がうまいこと言えと…… いやもう、ワンカットごとに、なんなんだこれは、どうしてこんな色なんだ、と驚きが尽きません。マッシュルームみたいな月や、小石みたいなエアーズロックや……。野口さんプロデュースの宇宙散歩、お楽しみください。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
unknown ☆☆☆☆	自然の雄大さを感じた以外に自然を守らなければないと感じました。			
	家	120P (120分)		2013/02/15 00:14:47
ごん ☆☆☆☆	もっと綺麗な写真を想像していたけれど、綺麗というより生命を感じさせる写真が多かった。			
	1-119	119P (10分)		2013/02/14 23:42:00
こあらまん ☆☆☆☆☆	ゴールデンウィークの東京の夜の写真やばすぎた			
	全部	120P (10分)		2013/02/14 10:22:46
Lloyd Shapley ☆☆☆☆	Twitterで実況中継していたのですね。今はすごい時代ですね、宇宙から見た地球をリアルタイムで見られるのですから。 都市の写真で道路が光って網目状につながっているのがきれい。			
	ぱらぱら	60P (20分)	４P 雲海から覗く富士山	2013/02/13 18:08:12
しゅ ☆☆☆☆	きれい。自分の目で見れたらなぁ・・・。			
	全部	120P (20分)		2013/02/12 16:18:10
	宇宙から見た富士山がよかった。いつかは誰もが宇宙から地球を見られる時代が来るのだろう			

キクキ ☆☆☆	か・・・			
	1-120	120P (10分)	58	2013/02/12 15:55:32

どんぐり ☆☆☆	こんなに宇宙から見た地球がこんなにきれいとは思いもしませんでした。自然・人が作る模様はすごいの一言。			
	全部	120P (30分)		2013/02/12 15:31:06

テレビ父さん ☆☆☆☆	野口さんがこの映像を肉眼で見ていたのかと思うとただただうらやましくなる限り。 民間人が気軽に宇宙に行ける時代が来たら、絶対に宇宙に行ってこの光景を見てみたいと感じさせられた。			
	1-120	120P (20分)	20-21	2013/02/12 15:00:48

芳乃さくら ☆☆☆☆	街並みとかよりも雲が綺麗			
	全部	120P (30分)		2013/02/08 11:57:02

2A ☆☆☆	写真の画質がいいわけではない けれど、そこに「地球」という“物語”がある そんなことを感じさせる写真集でした。			
	1-120	120P (30分)		2013/02/06 12:07:48

H ☆☆☆☆	自然物の航空写真も非常に良かったですが、それ以上に幹線道路から枝分かれしたいくつもの細かい線や砂漠のなかにある巨大な施設の俯瞰画像など人工物が織りなすアートが良かったです。レポート疲れの目を癒すのにgood.			
	1-120	120P (45分)		2013/02/04 20:01:24

sn9 ☆☆☆☆☆	きれいな景色ばかりで感動した。			
	1-120	120P (20分)		2013/02/04 13:08:01

renkon ☆☆☆	「月の出」の写真がいいなと思った。 宇宙から見た富士山は、噴火口のくぼみがなんだかかわいい。			
	1-50	50P (5分)	40	2013/01/22 15:20:52

sub ☆☆	疲れたときなどに見るとより強く感動できそうな写真だった。			
	1-110	110P (10分)		2013/01/22 12:27:55

hagehage ☆☆☆	ISSからの野口さんによるTwitterにあげられた写真たち。ISSは少し地球に近いなとは思いましたが、日本人として誇らしいです。これはフォローワー増えますねwww			
	1-120	120P (30分)		2012/10/26 18:16:30

R2D2 ☆☆☆	日本の夜景は空から眺めても綺麗だと思った。一番は12ページの札幌か。 南アメリカやアフリカは、海の色か陸の色かわからない写真が多い。			

	1-120ページ	120P (30分)	12ページ	2012/10/15 10:11:33

若陸 ☆☆☆	あまり写真のことは詳しくないので、どれほどすごい写真なのかイマイチよくわかりません。 こんな絵画みたいな場所もあるのかあと思ったくらいです。 南鳥島を初めて見ました。			
	1-120	120P (15分)		2012/10/11 23:17:46

わに ☆☆☆	超いいカメラで撮ってるわけではないので、写真としてはそこまで感動はありません。わぁ野口さんはこんな絶景を見てたんだなぁというくらい。 しかし写真の綺麗さや良さが重要なのではなく、野口さんが宇宙から個人的に撮った写真をツイッターで公開して地球上のたくさんの人々がリアルタイムで写真を共有できたということに重要性があると思います。 地球上の人々が同じ星に住んでいるという認識だって持てますし、近い将来誰でも宇宙旅行に行けるという予感を感じることもできます。感じ方は人それぞれですが、多くの人がポジティブな気持ちになれたと思います。			
	すべて	120P (10分)	最後のインタビュー	2012/10/11 18:15:26

TOPへ

最新世界情勢地図

著者名	パスカル・ボニファス	発行年	2011年
出版社名	ディスカヴァー・トゥエンティティワン	ページ数	143ページ
値段	1,700円	ISBN	978-4799310083
コメント	世界地図で遊ぼ！ 工夫されたレイアウトで表現されたマップの一葉一葉から、資源配分や歴史やパワーバランスや、ほんとにいろんな「光景」が見えてきます。今日はイランから世界を眺めてみましょうか。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
しぞーか ☆☆☆☆☆	元々こういった地図や表のような本が好きでよく読んでいたのでこの本をしっかり読んだかといわれると微妙だけれど、この手の本を読んだことがない人は一度は読んでみるといいと思う。↓の人が書いてた東京情勢地図僕も興味あります！！！！			
	全部	100P (60分)		2013/02/14 14:10:00
こあらまん ☆☆☆☆	めちゃくちゃわかりやすくてびっくりした。プレゼンとかでもちゃんと図表つかわんとなあ・・・			
	1-143	143P (60分)		2013/02/14 10:38:39
テレビ父さん ☆☆☆☆☆	高校時代から地理が好きだった自分にとってはとても興味深い内容だった。 地図の使われ方、色の使われ方とも見やすく、とても読みやすかった。			
	1-143	143P (30分)		2013/02/13 17:47:08
TT ☆☆☆☆☆	様々なデータを基に世界の様子が図指されていたが、カラーで見やすかった。後半には世界各国のそれぞれの国から見た世界が表されていて興味深かった。			
	1-143	143P (40分)		2013/02/12 23:26:34
TDF ☆☆	別に悪くないと思うけど、世界情勢とか各国から見た世界とかなら、毎年出ているような世界情勢とか世界地図の方とかが情報量も多いし、いいんじゃない？と思った。			
	1-143	143P (20分)	なし	2013/01/27 09:35:56

あさひな ☆☆☆☆	世界地図がテーマに沿ってわかりやすく色づけされていて、現在の国際状況や動きを視覚的に把握しやすい。 歴史的な事柄に関しても、周辺国への影響や関わりが一目で分かり、世界を一国一国に区切ったような高校時代の歴史学習が苦手だった自分にはとても参考になった。 デザインの面でもきれいで面白く、つねに手元に置いて眺めていたくなるような本。			
	1-143	143P (60分)		2013/01/22 12:24:18

わに ☆☆☆☆	地図を眺めるのが好きな自分にとってはとても興味深い“地図本”でした。 高校の社会科の授業を受けるときにこの本を傍らに置いておけばもっと歴史や地理が楽しめただろうなぁと思います。 “最新東京情勢地図”を作ってみたいです！←わりとほんき。			
	1-143	143P (30分)		2013/01/14 21:53:59

だれそれ ☆☆☆☆☆	カラーで読みやすく、いろいろな視点から描かれているので勉強になりました。歴史についても書かれており、歴史を習ってない人にも、歴史なんか忘れたという人にもお勧めです。			
	P1-143	143P (60分)		2012/12/11 21:57:43

本の虫 ☆☆☆☆	歴史的な事柄や現代の社会状況など世界地図に書き表すことで世界の様々な問題が浮き彫りになってくる。事柄に応じて地図の形や視点を変えたり、色がついてたりするので読みやすいです。			
	10-143	134P (45分)		2012/10/14 08:59:29

TOPへ

地球のハローワーク

著者名	ナショナル・ジオグラフィック	発行年	2009年
出版社名	日経BP社	ページ数	333ページ
値段	1,900円	ISBN	978-4863130722
コメント	表紙の写真に一目惚れ。 人生の豊かさとか、地球の広さとか、めんどーなコリクツなんて、どうでもいい。パラパラめくって運良く「一目惚れ」に出会えたらこの本はあなたのものです。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
しぞーか ☆☆☆☆	ぱらぱら読む程度だけだったけれどいろいろな写真があって楽しめた。			
	いろいろ	100P (30分)		2013/02/14 13:51:43
homes ☆☆☆☆☆	写真が好きな人にはオススメの一冊			
	全部	333P (30分)		2013/02/14 01:02:47
キクキ ☆☆☆	世界一周旅行をした気分になれる。			
	1-330	330P (20分)	115ページ	2013/02/12 16:29:51
ポール ☆☆☆☆☆	多くの写真で世界中を見て回った気分に慣れます。中には色々と考えさせられる写真もありとてもためになりました。			
	1-335	335P (40分)	1-335	2013/01/29 17:37:11
TT ☆☆☆	世界の様子を写真で伝えている一冊。世界中の働く人の様子が見られておもしろかった。			
	1-335	335P (60分)		2013/01/21 23:26:09
sub ☆☆	写真から作者の意図を読み解くの困難だった。			
	1-133	133P (30分)		2013/01/16 16:08:40

R2D2 ☆☆☆☆	年代も場所も違う写真だが、みな働いている姿を撮ったものだ。この本を読むと、働くことが人類にとって必要不可欠なことだ、というのが、強く感じられる。働くことで初めて一人前の人として認められた気がする、というのは本当だと思う。			
	1-335ページ	335P (60分)		2012/12/10 12:02:35

ポール ☆☆☆	世界各国のユニークな写真が見れて楽しかった			
	1-335	335P (120分)	50-60	2012/10/23 23:02:07

わに ☆☆☆	歩道橋の上に裸の赤ちゃんが寝そべらされ、その前にコップが置いてある。それを当たり前のように通り過ぎる人々…。 その赤ちゃんは物乞いさせられているのである。赤ちゃんをそんな格好で地面に置く親の気もしれないし、そうせざるを得ないような社会のせいでもある。結局誰も悪くない。 また、日本に住む自分から見たら“かわいそうだなぁ”と思うような人々がいる、しかし背景の自然のなんと素晴らしいことか。日本もかわいそうなのがしれない。			
	すべて	333P (30分)		2012/10/16 12:32:04

TOPへ

アフリカ・レポート

著者名	松本仁一	発行年	2008年
出版社名	岩波新書	ページ数	199ページ
値段	700円	ISBN	978-4004311461
コメント	ジャーナリストさんが伝えるアフリカ情報。 失敗だらけの国づくり、たくましき中国人商人の展開など興味尽きないけれど、経済学を勉強しているなら、下記の２点をぜひ考えてほしい。 ジンバブエの惨状について、著者はインフレ率16万%、ハンバーガー１個が3000万ｚドルと紹介し、それもこれも権力が腐敗し、ムガベ大統領が私腹を肥やしたせいだ、と指弾する。 疑問１ 物々交換が常態の国において、通貨を基準にした数値は、どれほど意味を持つのだろうか？ 疑問２ 権力者がスイス銀行に隠し口座を持ったくらいで、国の富がすっからかんになってしまうものなのだろうか？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
34 ☆☆☆	夏休みアフリカに行く前に読めば良かったと思った。			
	全部	199P (199分)		2013/02/14 10:47:44
Shin Murota ☆☆☆☆	アフリカ行きたくなった			
	1-140	140P (120分)		2013/02/14 07:11:27
わに ☆☆☆	まるまる鵜呑みにして読むかどうかはおいといて。 他国が首を突っ込むと「それはレイシズムだ！」という返答しか返ってこないということに考えさせられた。それは程度はどうであれ事実として間違いないだろう。 60年代のブラックミュージックを聴いていると“人種問題”というテーマがいかに重くシビアな問題であったかということがひしひしと伝わってくる。ものすごいエネルギーを感じるからだ。音楽だけでなくアートや政治もひっくるめたムーブメント（ラスタファリ運動など）にまでなっていたということがそれを裏付けている。 黒人の独立や人権というテーマはこのように文化にものすごいエネルギーを注がせる可能性を秘めている。その反面、レイシズムを言い訳に言い逃れているという現実も存在する。 人種問題は私たち日本人が想像する以上に根深い問題なのだと思う。			
	1-50	80P (30分)	目次	2013/02/10 23:41:25
うーぱ	アフリカの貧困については知っていても、その原因を真剣に考えたことはなかったので、政治の腐敗が原因だというのは興味深かった。 遠くのことだから知らない、ではなくて、同じ地球に生きる者として、もっと考えなければならな			

☆☆☆☆☆	いと思った。			
	1-205	205P (120分)		2012/11/28 19:42:59

TDF ☆☆☆☆	アフリカがなぜ発展できないかを、取材をもとに書いており、リアリティがある。 ジンバブエやソマリアがひどいという事は知っていたが、具体的な悲惨さについてはあまりよく知らなかったので、参考になった。			
	1-205	205P (50分)	120-151	2012/11/12 20:55:35

R2D2 ☆☆☆☆☆	「大統領から農地をもらった」などと公私の別がない発言を政府高官が当然のように言う。ジンバブエなどの国々で、圧政の不満を先進国へ責任転嫁したり、生活の基盤たる農地を台無しにしたりしてきた、腐敗した支配層たちにあきれ返る。ここに語られるような国々の政府へＯＤＡを拠出する日本の方針は再検討が必要ではないだろうか。			
	1-205ページ	205P (90分)		2012/10/30 19:36:32

圧倒的(晒され)犬 ☆☆☆	まだ中学生だった私に強烈な印象を与えた、朝日新聞の「カラシニコフ」という連載を執筆したのと同じ著者によるルポ。 一応地理選択で地理は得意だったのですが、アフリカってあまりイメージが無くて、一括りに広大な自然があって技術力はあまりなくてでも地味に高層ビルが建っているような都会もある、くらいにしか知らなかった。あとは1960年ごろにたくさんの国が旧宗主国であるヨーロッパの国々から独立したことくらい。人々がどうやって暮らしてるとかあまり知らなかったので、そういうのを垣間見えるかなと期待して読みました。 実際に読んでみると、多くは「苦しむ」アフリカの人々をクローズアップしていて、まあタイトルに「壊れる国」とあるのでそういった国だからこそなんだろうけど、ほんまにそんなに悲惨なのかとちょっと懐疑的になってしまいました。 中国人移民の話はまったく知らなかったので非常に興味深かった。 そういえばジンバブエのインフレといえばit's cheaper to print this on money than paperというのが衝撃的です。			
	1-205	205P (80分)		2012/10/21 21:05:27

ＴＯＰへ

絶対貧困

著者名	石井光太	発行年	2011年
出版社名	新潮文庫	ページ数	323ページ
値段	540円	ISBN	978-4101325323
コメント	石井光太さん。私たちがおそらく一生関わらずに「済む」（←この２文字をゴチックとして読んでください）であろう世界を、ここまで深く、たしかに、かつ明確な主張とともに届けてくれる書き手さんを他に知りません。 山室的立ち読みポイントは ・55-56ページ メイちゃんのお母さん ・164ページ 花売りビジネスモデル ・292-3ページ 売春宿の子供は高学歴		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
しぞーか ☆☆☆☆☆	不謹慎かもしれないが読んでいて面白かった。スラムなどの生活がどのようになっているかなど、具体的に知ることができたので満足している。			
	1-323	323P (120分)	1-30	2013/01/22 01:29:21
しゅ ☆☆☆☆	全く知らない世界。写真も乗ってて、人々の暮らしぶりが鮮明に想像できた。読みやすかったです。			
	1-151	151P (60分)		2013/01/13 14:22:16
TDF ☆☆☆☆	普段私たちが全く知らないような世界の貧困層のコミュニティの暮らしぶりについて筆者の実体験をもとに書かれており、リアリリティがあり、衝撃を受ける。 ショッキングな内容もある一方で、筆者が出会ってきた人たちと対等な目線で書かれているので、「この人たちは悲惨だ!!」といった押しつけがましさはあまりなく、読みやすいと思う。			
	1-321	320P (70分)	7-10	2012/11/12 20:51:59
圧倒的(晒され)犬 ☆☆☆	講義調でさくさく読み進めやすい。 現場を見に行きたくなるような興味を惹かれるルポルタージュでした。 世界に貧困層はたくさんいてそういった国に経済支援を～とかそういうのはよく耳にするけど、そういう人がいったいどんな生活をしているかって案外知らないものだと気付かされました。 P138の「インドネシアの人口ピラミッド」の話が自分には一番興味深かった。 P237~の物乞いビジネスの話は「スラムドッグ＄ミリオネア」でまさにそういうエピソードがあったなと思い出しました。			

	1-323	323P (120分)	137,138	2012/10/09 18:03:12

rayban ☆☆☆	東南～中東のアジア、アフリカの貧困層を取材したルポタージュ。講義型の授業を本にしたもの。 著者の体験を通した、発展途上国における貧困のリアルが書かれている。 薬物依存や社会不適合を起こし続けるストリートチルドレンや、貧困ビジネスと化した売春など、 思わず目を背けてしまうような実情も、現地の人々と筆者と読者の適切な距離感が保たれたまま如 実に述べられている。 また、物売りや犯罪のシステムが簡潔にモデル化されており、社会構造理解の助けとなっている。 貧困問題は、辺見庸や山本敏晴など、いろいろな立場の人々が様々な時代、形で本を書いている。 取材側の視点や関係性などを踏まえ違いを感じることで、他人の感受性に接する機会となり興味深 く読み進められた。			
	1-323	323P (100分)	物売り・物乞い、ストリートチルドレン、売春編	2012/10/02 16:42:33

TOPへ

ルポ 貧困大国アメリカ　・

著者名	堤 未果	発行年	2008年
出版社名	岩波新書	ページ数	409ページ
値段	700円	ISBN	978-400431126
コメント	サブプライムに不法移民、所得格差が拡大するいっぽうなのは国家がそう仕向けてるから。ワーキングプアはイラクで傭兵と化す。テロより怖い民営化。 ぱんぱんぱんと立て続けに見せられて、ここまでヒドいのか、と唖然。ちょっと片方の局面を強調しすぎだとは思うものの、そのぶん主張はわかりやすい。それがベストセラー街道驀進の理由か。 そして、これが日本でベストセラーになるのは、明日は我が身の危機意識か、それとも、やあいアメリカン・ドリームも崩壊してるんだと野次馬的いい気分になれるからか。 などなど、いろんな読みを引き受けられる軽量＆パワフルな２冊。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
aya ☆☆☆	一歩間違えれば貧困になってしまうので、アメリカで生きていくのは大変だと思った。特に学生ローンの問題に関しては、よくないと思った。			
		207P (60分)		2013/02/13 08:50:13
TDF ☆☆	サブプライムローン後の状況も踏まえた本となっているが、続編で主材料が足りないのか、分析の浅い本になっていると思う。 別の本か、1だけでいいと思う。			
	1-224	224P (40分)	なし	2013/01/27 09:40:50
TDF ☆☆☆☆	公的な医療保険がないこととか、軍隊のリクルートが貧困層をexploitしていることとか、学生ローンのヤバさとかは、アメリカの良い側面だけでなく、悪い側面も知るのに有効だと思う。			
	I	207P (50分)	学生ローンの項目	2013/01/27 09:39:10
しぞーか ☆☆☆	アメリカの貧困層について学ぶことができた。医療の問題については同情するところが結構あったが、学費払えなくなったりカード破産した話に関しては馬鹿じゃないのかと思った。たぶんこの人たちは日本に住んでいてもたぶん破産している気がするのであまり同情できなかった。			
	I の全部	200P (180分)	15-31ページ	2013/01/22 00:52:21
	アメリカのブラック企業ぶりが分かる。濫読できてない。			

umi ☆☆☆☆	サブプライム後のアメリカから、25条が民営化されてもよいのか訴える。中流社会からの格差社会、アメリカの貧困へ至る経緯を日本も辿っているのではないか。 日本の民営化の先には何があるのだろうか、社会保障制度が縮小すればワーキングプアが増える。米のように軍への入隊は増えないだろうが、治安の悪化が目立つだろうと予想した。 悪い面ばかり書かれているのかもしれないが、「大学を出てもアルバイト、学資ローンは返済できない。」というあたり、明日は我が身と思って読める。			
	1-207,　1-216	423P (300分)	P.70-74	2012/10/16 18:44:30

圧倒的(晒され)犬 ☆☆☆	アメリカンドリームとは一体なんだったのか。 治療を受けようにも法外な値段(日本人である自分からすると)を吹っかけられ、学資ローンを組んで大学進学しても就職にありつけずローン地獄に陥り、軍隊に入れば学費援助が受けられるという約束も十分には果たされない挙句に戦地に飛ばされる。　を読んでアメリカという国に自分が抱いていた幻想をぶち壊された。まあ確かにこれは極端な面を取り上げているだけかもしれないが、それでも貧困層の母数が多いのでこうした状況が当たり前になってきているのだろう。 　ではオバマ政権後の話が語られるが、changeとはなんだったのかという感じである。アメリカにコーポラティズムが蔓延っている限り貧困層には人間としての最低限の生活なんて保障されないだろう。持つものと持たざるものの格差は日本でもあるだろうが、比じゃないなと思いました。日本に生まれてよかったと少し思いました。でも学資ローンの話とかは奨学金をもらってわざわざ一人暮らしをして大学に来ている身としては身につまされます。 刑務所ですら入居料のようなものを取られるのが一番の衝撃でした。			
	1-207　1-216	423P (240分)		2012/10/11 11:57:13

TOPへ

ネット大国中国——言論をめぐる攻防

著者名	遠藤 誉	発行年	2011年
出版社名	岩波新書	ページ数	219ページ
値段	798円	ISBN	978-4004313076
コメント	お隣中国のネット事情について。ネットに政治的に介入する中国側の施策の裏側と、ネットユーザーの感情とがやけに生々しくて面白い。 中国版2009年の漢字は『被』だそうだ。「被自殺」「被代表」「被増長」、なんだよそれと思ったら、p93へGO。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
renkon ☆☆☆	中国政府がインターネット上の情報について厳しい検閲を行っていることは前々から聞いていたが、グーグル中国がその検閲のせいで撤退したことは知らなかった。情報を巡る官民の攻防についての現状がよくわかった。こんなに巨大な人口を抱える国で、フィルタがかかった情報を信じて生きている人が何億もいるのは恐ろしい。			
	1-55	55P (100分)		2013/02/14 10:02:25
TDF ☆☆☆☆	中国のネット言論動向がいろいろな事例を通じて、詳しく書かれており、今後の動向を見守るのに際して役に立ちそう。			
	1-219	219P (70分)	第2章	2013/01/27 09:44:28
TT ☆☆☆☆	報道などでうっすらとは知っていた事柄だったが、実態を知ると日本では考えられないようなことばかりで驚いた。			
	1-219	219P (200分)		2012/12/11 00:36:01
R2D2 ☆☆☆☆	中国のウェブで中国共産党が批判される状況を主に述べている。日本なら某巨大掲示板群や某動画サイトなどで触れられる政治問題について説明しているようなものだが、本書を読んで、国の政治と国民の意思表示という関係からすれば、中国でのネット言論の重要さは日本の比ではないと感じた。時局的ですぐ古い話題になってしまうこのような問題をわざわざ語った著者が、戦前・中国の生まれであることは注目に値すると思う。 「トップダウン型の強い指導者が統治する中で、ある程度ボトムアップの民の意見を取り入れる形式の“中国式民主”主義」が今の中国にとって「西洋式民主主義」よりも優れていることは、なんとなく自分にも納得できた。			
	1-219ページ	219P (120分)		2012/11/26 10:46:49

芳乃さくら ☆☆☆	確かに面白いが、少し偏りすぎな気がする。確かにそう言う本だからこそ面白いのかもしれないが。それ以外は、普段はあまり知らない中国事情が分かって良いと思う。			
	1-219	219P (100分)		2012/11/13 12:39:40

あさひな ☆☆☆☆☆	「サイバー・テロ 日米vs中国」と併せて読んでみました。 さすがの人口大国。ネット空間に於いてもスケールが違う。 急激な経済成長の中で変化した若年層の権利意識、中国のインターネット情勢について解説しながら、後半では近頃の反日デモについても触れられています。 途中の第4章では、webを検閲する政府とそれを逃れようとアレコレ工夫する網民(ネットユーザー)とのチェイスが軽快に描かれていて面白い。ネットスラングやブラックユーモアが好きな方におすすめです。 資本主義と社会主義が入り混じる国家・中国で、ネット言論の扱いが今後どのように揺れ動くのか、動向が気になります。 「ネット検閲」という日本ではあまり馴染みのないテーマ、とても興味深く知ることができました。面白かったです。 -- 政府の厳しい検閲がありながらも政府を揶揄するスラングが流行語大賞に選ばれたり、反日運動を行いながらも日本の製品や動漫を愛好するといった中国の二面性、筆者はそれをダブルスタンダード現象と呼んでいますが、やはり不思議というか理解しづらいですね…			
	1-219	219P (90分)	4章	2012/11/08 18:39:01

たきごはん ☆☆☆☆☆	4.5億人という網民（ネット住民）人口を抱える中国のインターネット事情。巨大なエネルギーが持つ可能性と危険性、というテーマも大変興味深いのですが、それ以上に、中国でのインターネット言論について、赤裸々に語っているのが面白かった。 テレビでのヤラセや時事ネタのいじり、政治家に対するパロディなど、日本でのネット言論とあまりに雰囲気が似ていてビックリ。個人的には、「和階される」というワードが爆笑ものでした。 （日本でも2つ前の首相の時、似たような言葉がありましたね...。）			
	2-114	113P (80分)	101-103	2012/11/02 01:14:30

だれそれ ☆☆☆	80后(1980年代生まれ)の問題など、日本と同じ問題も抱えている側面もあった。			
	P1-24,115-219	129P (80分)		2012/10/30 18:41:55

K ☆☆☆☆	インターネットへの詳しい記述から若い人が書いているのかとおもいきや、1941年生まれとな。 （一番の驚きはここ） 昨今の領土問題・反日デモにも通ずる中国８０后・９０后の網民の生態をとくとあれ。			
	1-219	219P (180分)		2012/10/22 22:20:08

圧倒的(晒され)犬 ☆☆☆	中国で生まれ幼少期は毛沢東を崇拝するように育てられたという筆者が、中国のネット社会を解説する。 革命以降に生まれ育った80后90后がインターネットやSMSを駆使してボトムアップな行動、デモを起こしていく。中国という国は情報統制があり、また共産党政治と資本主義市場が両立しているという特殊なケースな気もするが、ネットから現実に行動がうつっていくというのは面白い。チュニジアの革命の例もあるし、ほんとに革命おきないかなーと思います。 日本では一応メディアは第四の権力とか言われてたりしていて、まあそれが機能しているかどうかは別として規制も緩いが、そういった国は実は世界では少ないそうです。			
	1-219	219P (120分)	156-161	2012/10/06 13:54:54

TOPへ

サハラ、砂漠の回廊

著者名	野町和嘉	発行年	2010年
出版社名	新潮社	ページ数	119ページ
値段	3,400円	ISBN	978-4104025039
コメント	タッシリ・ナジェール、サハラ砂漠の最深部。 忘れないでほしい。ここはかつて、水ゆたかに溢れ、カバやワニが悠然と泳ぎ、人びとが白黒まだらの牛を飼って暮らした恵みの地であったことを。祭りの日には仮面を付けてみんなで踊り、祈りの時には両手を掲げて白い巨人を遙拝した繁栄の地であったことを。 エジプトに文明が栄えるずっとずっと昔。紀元前七千年から八千年間もの永き時を描き継がれてきたという岩窟の砂絵。不思議な乳房の描き方に見入りつつ、古代びとの呼び声に耳を澄ます。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
unknown ☆☆☆	砂漠の独特な気候こそ独特な文化を生みたしたと感じました。歴史の壁画も多かったが、自然現象で出来た地形はさらに想像無限とおもいました。老人の顔がはっきり映った一枚に心を打たれた。			
	製図室	119P (20分)		2013/02/15 00:55:15
ごん ☆☆☆	何千年も前の人の痕跡が残っていることにすごく感動する。			
	1-119	119P (15分)		2013/02/14 23:59:58
44 ☆☆	高かったので立ち読みしたけどあまり興味がわかなかった。			
	30-50	20P (30分)		2013/02/14 21:59:09
どんぐり ☆☆☆☆	砂漠の壁画や夜は、何か異世界のもののような、宇宙のようなものを感じさせる気がする。 そう感じました。			
	全部	119P (119分)		2013/02/14 14:23:36
こあらまん ☆☆☆	壁画ってなんか苦手だなあ			
	20ｐくらい	20P (5分)		2013/02/14 10:25:18

キクキ ☆☆☆☆	何千年も前に人間が生活していた痕跡が残っているのはすごい。自分の生きた証が数千年後に残っていれば嬉しいかも・・・。			
	1-119	119P (15分)	30-31	2013/02/12 17:02:21

テレビ父さん ☆☆☆☆	昔、サハラ砂漠にも生き物がいたことを現代に伝える壁画はとても貴重なものであると感じさせられた。 壁画ももちろんすごかったのだが、立ち読みポイントにしたオレンジ色の砂漠がとても印象的だった。			
	1-119	119P (20分)	30-31	2013/02/12 14:41:14

H ☆☆☆	サハラ砂漠の壁画についての写真集です。古代の人々の暮らしを垣間みていけます。			
	1-119	119P (60分)		2013/01/28 10:11:15

TOPへ

死刑執行人サンソン

著者名	安達正勝	発行年	2003年
出版社名	集英社	ページ数	237ページ
値段	700円	ISBN	978-4087202212
コメント	仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましき家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれる。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
たきごはん ☆☆☆☆	わずかにタイムオーバーしてしまいましたが...許して下さい！！ 「死刑執行」というと、普通はされる側にスポットライトが当てられるものなので、この本のテーマは新鮮でした。考えてみれば、執行される側はたった一度きりしかその場に立ち会いませんが、執行人は何人もの首を切り落とさなければならないんですよね。 「斬首刑は難しい」「執行人にも葛藤がある」などの一節は、どちらかというと読んで安心しました。人の首を刎ねることは、どういう理由があろうと簡単であってはいけないよな...と思うので。			
	1-136	136P (60分)		2013/02/15 00:24:42
H ☆☆☆	帯に荒木飛呂彦の絵がついていたので借りてみました。 ああ、確かにジャイロのモデルだなと分かります。 最近、サンソンをあつかった漫画が連載してた気がしますね。			
	1-237	237P (180分)		2013/02/08 15:20:48
rayban ☆☆☆☆	オレは『納得』したいだけだ！ 『納得』は全てに優先するぜッ！！ でないとオレは『前』へ進めねぇッ！ 『どこへ』も！『未来』への道も！探す事は出来ねえッ！！ - ジャイロ・ツェペリ 『ジョジョの奇妙な冒険』より フランス革命という乱世の時代を生きた苦境の一族を、史実にもとづき精細に描いた伝記。 ギロチン発明の秘話やサンソン一族の当時の暮らしぶりなどが丁寧に書かれている。 歴史に翻弄され、信じる教えに葛藤しながら、それでも自分の職務を全うしようとする賢明なサンソンの姿に心が熱くなる。 現代でも絞首刑という原始的な死刑の方法を用いている日本。そんな国に住む我々にとっても、この史実から得られる知見は決して少なくないだろう。			

	ぜんぶ	237P (120分)	ギロチン発明、ルイ16世の秘密のミサ	2013/01/26 23:51:23

Shin Murota ☆☆	命の尊さについては学べなかったけど、勇気をもらった			
	1-237	237P (180分)		2013/01/17 07:21:14

hagehage ☆☆☆	すこし間延びしているというか、主張が一貫しているので意外性がないような感じもした。肝心の元国王処刑の場面もあっけなさすぎるような・・・。 しかし、たくさん寄り道することで、この時代についていろいろ学べて良かったし、最後の主張は熱かった。処刑人から見たフランス革命に興味ある方は是非一読を			
	すべて	237P (180分)		2012/11/14 08:28:53

零知 ☆☆☆	すごい仕事だと思いました			
	すべて	237P (180分)		2012/11/07 20:37:18

Lloyd Shapley ☆☆☆☆☆	一気に読んでしまいました。 主人公サンソンの心理描写も少しあり4分の１小説、4分の３第三視点からの歴史書という感じですので、物語としても楽しめます。しかし著者が入念な下調べをして書いており、ほぼノンフィクションと言えると思います。一々筆者が引用文献を示すのは、論文みたいで大変信頼できまた好感をもてます。 死刑執行人というと一見影が薄いようですが、その仕事ぶりが丁寧に資料として残っていることが面白いと共に、そこに目をつけその視点からフランスの社会構造を述べ革命を述べるという着想がすばらしいと思います。 第一期からのこっているのも納得です。			
	1-237	237P (192分)	2章でギロチン誕生前の刑罰の残酷さを説明した部分	2012/11/05 13:08:26

umi ☆☆☆☆☆	めっちゃ読み応えのある本。 ルイの首を刎ねるシーンなんかもう…。やたらグロイ描写があったけど作者の人、これ全部調べたんだなと思うと大変だなーと。サンソンの心の描写が本当に丁寧でリアル。人に勧められる。			
	1-239	239P (180分)		2012/11/01 19:23:56

芳乃さくら ☆☆☆☆☆	フランス大革命の前後の歴史が良く分かって面白い。が、結構読み辛いので結構時間掛かる。			
	1-130	130P (100分)	1-10	2012/10/10 10:01:07

圧倒的(晒され)犬 ☆☆☆☆	年代がかなり行き来するので、新書と考えると読み辛いが物語または伝記と考えて読むと良い演出になっていると考えられる。 フランス革命について全く新しい視点を与えられた。 カエルの子はカエルな旧体制的な身分制度に疑問を感じながらも、国王への敬意と敬虔な信仰をもったサンソンの苦悩が伺える。疑問を感じながらも仕事を遂行するサンソンのプロフェッショナルさに驚くと共に、逆らうことのできない革命時の大きな社会の流れに巻き込まれていく状況は悲しいものだと感じた。			
	1-239ページ	239P (90分)		2012/10/03 15:35:41

TOPへ

戦争広告代理店

著者名	高木 徹	発行年	2002年
出版社名	講談社	ページ数	405ページ
値段	619円	ISBN	978-4062750961
コメント	世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
若陸 ☆☆☆	内容が難しいので読むのにかなり時間と頭を使いました。 印象操作や情報取得の最たる分野である広告を、印象操作や情報取得を最も必要とする戦争に応用する話です。 それに関する話が5W1Hで書かれていて、結構タメになる部分もチラホラありました。 読んだ直後は、これはあの部分の話からすると... というように広告に対して疑心暗鬼になります笑			
	全部	405P (600分)		2013/02/13 02:43:55
SYLPH ☆☆☆☆☆	様々な主体の思惑が交錯する話が大好きな自分にとってはかなり楽しく読めた1冊でした。内容は暗かったけど。			
	全ページ	405P (300分)		2013/02/11 14:33:10
ポール ☆	難しかった。			
	1-385	385P (600分)	0	2012/11/13 13:13:55
もりもり ☆☆☆	PR企業とは何かがよく分かります。 情報をいかに集め、巧みに操ることの難しさと、これを成功することでいかに利益になるかを実感できる本でした。			
	1-405ページ	405P (480分)	386-393ページ	2012/10/21 17:43:16

TOPへ

日本列島の２０億年

著者名	白尾元理	発行年	2009年
出版社名	岩波書店	ページ数	100ページ
値段	1,900円	ISBN	978-4000057707
コメント	写真がすばらしい。特に空撮。鳥の目でしっかりと山や川が、どんなふうに地形をつくってきたかが見てとれる。ナンバー20の新雪富士にほれぼれ。 解説が、もっと愛想良かったらなあ。できればイラスト入りがあらまほしい。良い企画なのに、そこがホント惜しい。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ごん ☆☆☆☆	絶景写真でした。白馬岳の写真がお気に入り。			
	1-98	98P (5分)		2013/02/14 23:47:57
unknown ☆☆☆☆	自分には日本に繊細な人工的な景観が世界的有名で雄大な自然がないというイメージだったが、イメージを変えて、雄大さを感じました。ダントツやっぱ富士山の火山口が一番訴えてくると感じた。			
	家	100P (20分)		2013/02/14 22:36:56
どんぐり ☆☆☆☆	自然の壮大さを感じた。 写真がとても良く、こんな写真自分で撮れたらいいなと感じた。			
	全部	100P (40分)		2013/02/14 14:17:11
こあらまん ☆☆☆	ハラハラするような絶景でした			
	100	100P (10分)		2013/02/14 10:18:28
キクキ ☆☆☆	日本にもこんな場所、光景があるのかと驚かされる。やっぱり富士山は美しいなー。			
	1-100	100P (20分)	70ページ	2013/02/12 16:51:30
	息をのむ写真の連続。ただの風景写真というわけではなくて、地層や岩などの地球の変化が見られ			

テレビ父さん ☆☆☆☆	るものばかりでおもしろかった。 83ページの富士山の写真の圧倒的な存在感もすごいと感じた。 だがやはり、さんざん自然の写真を見せられた後に見る、98ページの東京の写真には考えさせられるものがあった。			
	1-100	100P (20分)	83・98ページ	2013/02/12 14:50:42

しゅ ☆☆☆☆	地層の写真を見てもよくわからないけど、後ろに解説がついてたのでよかった。最後に東京の写真がくるあたりにメッセージを感じました。			
	全部	100P (20分)		2013/02/07 20:07:51

H ☆☆☆☆	岩石や地層、その他山々の航空写真などが前半に、写真の解説が後半に掲載されている仕様でした。自然風景の写真は眺めるほど、何故かわくわくしてくるのでたまらない一冊でした。			
	1-100	100P (75分)		2013/01/22 12:13:04

あさひな ☆☆☆☆	ありがちな風景写真かな？と思ったら、地層や地形の写真が多いです。 その手のマニアにとっては垂涎モノではないでしょうか。地層、好きです。美しいですね。 空から撮った写真にも息を呑みます。日本ってこんなに綺麗だったのかと思います。自分が猛禽類になって山々を滑空しているような感覚を覚えました。すごくダイナミック！ お洒落な写真だけでなく、たまにはこういうゴツいスケールに圧倒されるのも素敵ですね。おすすめです。			
	1-100	100P (60分)		2012/12/20 21:21:36

R2D2 ☆☆☆	どの写真も高精細で20億年の造形美を飽かず眺めることができるが、話を聞かなければ自然物とは思えない38番の「トムラウシ山の多角形構造土」も面白い。東京は上から眺めてもあまり綺麗には見えないな、と感じた。			
	1-100ページ	100P (30分)	92ページ	2012/12/10 11:55:34

2A ☆☆☆☆	季節や地形の変化に富んだ私たちの日本。 その日本において各地の特徴的な地形を写真で切り取るだけでもそれは一つの絵として成り立つ訳で。 そんなことを感じさせる一冊。 唯一、解説が巻末にあってちょっと写真と参照しづらかったのが難点かなぁと。			
	1-101	100P (30分)		2012/11/13 12:50:29

TDF ☆☆☆☆	日本列島の成り立ちを語る地質・地形の紹介。 写真はとにかく圧倒的。自然の作った地形に改めて圧倒される気分を味わえる。 解説が丁寧で、パッと見何の写真かわからなくてもコンテクストが理解できるのもgood。			
	1－100	1P (100分)	15-20	2012/10/24 04:13:34

TOPへ

図書一覧
書籍紹介
読者投稿欄
映画一覧
プロフィール一覧
自己プロフィール
掲示板

武士の家計簿

著者名	磯田道史	発行年	2003年
出版社名	新潮新書	ページ数	203ページ
値段	680円	ISBN	978-4106100055
コメント	埃まみれの古文書から微細にあぶり出される武士家族の収入と支出。維新を乗り切ったつましい暮らし。映画化、来ました。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
ごん ☆☆☆☆	仲の良い家族がうらやましい！わたしも節約上手になりたい。			
	1-203	203P (300分)		2013/02/14 23:51:48
Shin Murota ☆☆☆☆	温まった。冬に読みたい本。			
	1-203	203P (120分)		2013/01/17 07:24:08

TOPへ

江戸の可愛らしい化物たち

著者名	アダム・カバット	発行年	2011年
出版社名	祥伝社新書	ページ数	231ページ
値段	780円	ISBN	978-4396112622
コメント	妖怪さん達の週刊誌ネタ。親分肌の見越入道さんや、ストーカーのろくろ首。キャラに入り込めるとより親しみが増します。 こういうのをさらさら読んで、大笑いしてた江戸人たちのリテラシーの高さにびっくり。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
K ☆☆☆	主に黄表紙からとられた化物話。小さく題付けするのに様々な本からバラバラに取られていたのが気になった。こういう趣向も良いかもしれないが、できれば一冊まるごとにしてほしかった。 来年は「桃山人夜話」や「耳袋」などを追加してみてはいかがですかね？			
	1-231	231P (120分)		2013/02/06 02:30:24
圧倒的(晒され)犬 ☆☆☆☆	作者が外国人であったことにまず驚きました。 江戸の化物(妖怪ではない！)たちを現代生活の観点から読み解いて解説していて適当に開いたところを読んでみても楽しめるし、濫読に向いていると思います。 化物は恐ろしいものではなくださいものという観点で読むように誘導されているので結構クスリとできます。			
	3-227	225P (80分)	序章	2012/11/20 21:12:28
あさひな ☆☆☆	江戸に暮らす化け物たちの暮らしぶりが、「通勤ラッシュ」「草食系男子」「できちゃった婚」など、現代社会と馴染みの深いワードとともにユーモアたっぷりに紹介されています。 どの化け物たちも妙に人間くさくて一生懸命で、愛嬌を感じる。 お気に入りの遊女が他のお客さんといちゃついてるところを目撃してしょんぼりしちゃう見越入道さんがいいキャラしてます。			
	1-231	231P (70分)		2012/11/15 14:31:41
R2D2	本書に登場するばけものたちは、人間社会の裏にひそかに隠れて、人間をまねながら滑稽な暮らしをしている。電気のない暗闇の中の想像力が、次の想像へつながって、このようにユーモラスなジャンルの娯楽につながったのではないだろうか。当時の江戸人たちの生活もそれなりに楽しそうだ。 落語などでも「人間の業を肯定する」（立川談志）ものだとして、不道徳や罪といった人間のあら			

☆☆☆	ゆる過ちをおおらかに認める雰囲気が作品の中にあるのを感じるが、江戸の娯楽本・黄表紙にも共通したものを感じる。			
	1-231ページ	231P (120分)		2012/11/04 14:49:21

umi ☆☆☆	つまみ読んだ。著者が日本人ではなかった！			
	p.124-171	47P (30分)		2012/10/25 03:32:01

20 ☆☆	下ネタのページしか読んでないのですが 真面目に解説しています 最初は面白いのですが、真面目すぎて飽きてしまいました(-.-)			
	132-155	23P (40分)		2012/10/15 15:05:14

TOPへ

トランクの中の日本

著者名	ジョー・オダネル	発行年	1995年
出版社名	小学館	ページ数	98ページ
値段	2,500円	ISBN	978-4095630132
コメント	たぶん戦争体験って、こんなふうにしか手渡してゆけないのかもしれない。 ハエが真っ黒にたかったりんご（90ページ）とか、アルミニウムのお盆（30ページ）とか、そして彼の代表作と称えられる96ページの少年……痛みなしでは受けとれない。 写真の重み、それが語るドラマの重みを受けとめつつ、並記されている英語のコメントにも目をとめてください。それもまた、ジョー自身が刻んでいったたいせつなメッセージだから。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
TDF ☆☆☆☆☆	終戦直後の日本をアメリカ軍のカメラマンが取った写真集で、なかなか衝撃的。 これだけ、まとまった量の写真を見るのは初めてで、特に人々の生活に関しても撮影されているので、見る価値があると思う。 死んだ赤ちゃんを背負っている子供の写真は涙が出てきた。			
	1-98	98P (30分)		2013/02/14 20:10:04
わに ☆☆☆☆	戦災地を目の前にした筆者の戸惑いや憂いが、東日本大震災の被災地をテレビで見る私の戸惑いや憂いと似たものであるような気がした。実際に見る人がいちばん戸惑うのかなぁ。 死んだ弟をおんぶした少年を目の前にした気持ちってどんなんだろう。家族も友人もなくし、“アメリカに恨みはないが、帰ったらみんなに写真を見せるんだ”と言う老人の気持ちってどんなんだろう。 そして、米軍兵士からチョコレートをもらったときを大人になって思い出した人の気持ちってどんなんだろう。			
	ざっと	98P (30分)	有名な写真とそのコメント	2013/02/12 17:01:27
sub ☆☆☆	やっぱり戦争の傷跡を実際に目の当たりにすることは平和を考えるうえでは必要なことだとあらためて思わされた。			
	1-107	107P (60分)		2013/01/29 10:20:14
ポール ☆☆☆☆☆	最後のやけどの写真で10分くらい止まった。色々と考えることがある。Give Peace a Chance(Lennon and McCartney)を思い出した。 日本語と英語が書いてあったので楽しさ5倍だった。			

	1ー114	114P (60分)	1-114	2013/01/22 18:39:41

芳乃さくら ☆☆☆☆☆	パッと見て思ったのが綺麗に取れてるなと言うこと。 あと写真撮るためにいちいちお菓子とかタバコ渡してるのが面白い 今だったら、そんな風にものを頼まれたら逆に怖いのに 昔はそうじゃなかったんだなぁと			
	1-115	115P (30分)		2012/12/11 12:51:12

TOPへ

任天堂“驚き”を生む方程式

著者名	井上 理	発行年	2009年
出版社名	日本経済新聞出版社	ページ数	288ページ
値段	1,700円	ISBN	978-4532314637
コメント	人生のたくさんの時間をお世話になってきた、いやたぶん今もお世話になりつつあるゲームの世界のお話。 京都の花札屋がいかにして世界制覇を成し遂げたか？ なんてまとめると、ありがちサクセスストーリーっぽく聞こえるけれど、どうしてどうして、この会社はタダモノではない。「最先端じゃなくてイイ、枯れた技術でじゅうぶん」「僕らは役に立たないモノを作ってる」、経験に裏打ちされたスゴイ言葉がぽんぽん飛び出してきます。数時間のインタビューをお手軽にまとめたのとは底力の違う、取材の手あつさがあってこそ。気合いの入ったルポルタージュです。 そして何より、社長の岩田さんが我らが東工大の大先輩だってことに、アツくなれる……はず！		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
44 ☆☆	二昔前ならプレーステーションと互角の戦いをし、一昔前はwiiを発売し任天堂の一人勝ちその時代はよかったのだが今は携帯系ゲーム（GREEなど）に負けている現状なのでどうなのかなと思った			
	1-120	120P (70分)		2013/02/14 22:24:08
34 ☆☆☆	今任天堂がグリーとかＤＥＮＡに負けているので勝ってたから言えるのかなと思う部分はある			
	１－６０	60P (60分)		2013/02/14 11:15:31
Shin Murota ☆☆	流し読みしたけど、あまり面白くなかった			
	1-200	200P (30分)		2013/02/14 07:09:46
homes ☆☆☆☆☆	なかなか面白くて読み進めてしまった。 最近ではソーシャルゲームにシェアを奪われている任天堂さん、もっと頑張ってください！			
	全部	288P (120分)		2013/02/13 22:35:00
sn9 ☆☆☆☆	任天堂のゲームは何本もやったことがあったのでこの本を借りました。 とてもおもしろかったです。			
	1-288	288P (300分)		2013/02/11 16:34:58

SYLPH ☆☆☆	昨今の学習系、運動系ゲームソフト増加の背景にはこんなことがあったのか。知らなかった。			
	全ページ	288P (300分)		2013/02/11 14:29:32

sub ☆☆☆	企業が商品を開発・製作する為にさまざまな要因を考慮に入れるということの具体例をゲーム機の開発を通して見た気がした。			
	16-83	68P (60分)		2013/01/19 00:26:17

aya ☆☆☆☆	任天堂の歴史や社風についてなども書かれていて面白く読めた。 ゲームなどあまりしないので任天堂についてほぼ無知だったけど、この本を読んで素敵な会社だと思った。			
	全部	288P (150分)		2013/01/14 01:41:34

わに ☆☆☆☆	ゲームについての豆知識が得られて、さっそく誰かに話したくなった。“６４（ロクヨン）って最高技術が詰まった失敗作だったんだぁ”とか“wiiって世の中のお母さんに怒られないように作ったらああぁなったんだってぇ”とか。			
	1-76	76P (20分)	第一章	2012/12/12 16:13:56

ひきこもり ☆☆☆	徹底しておもしろいものを作るという任天堂哲学の中にもしっかりと時流を見極める社長達の確かな目が感じられた一冊。			
	7-304	298P (180分)		2012/11/09 08:14:42

東海大 ☆☆☆☆☆	wiiやDSといった任天堂の商品がソニーのPS3,PSPのような最新技術を駆使したゲームよりなぜ売れてるのか、なぜwiiやDSを作ろうとしたのかを元社長の山内氏、宮本氏、岩田氏らの任天堂の躍進に貢献している人のエピソードとともに書かれてあり、非常に面白かった。			
	1-288	288P (240分)		2012/11/06 01:18:36

H ☆☆☆☆	ゲームが好きなのでとりあえず借りてみましたが、どうやらその選択は間違ってはいなかったようです。まさか、ゲームキューブが売れていなかったとは・・・。子供ながらに良いハードだと思っていたので残念です。Wiiの誕生秘話で「技術のロードマップを外れろ」というフレーズが今後の教訓になりそうです。			
	1-239	239P (240分)	174-181	2012/10/31 11:24:13

2A ☆☆☆☆☆	自分は任天堂のゲームが好きなのでこの本を見たときすぐ借りました。(笑) とにもかくにも興味深くハッとさせられるような話が詰まった一冊でスラスラ読めてしまいました。 個人的には社長の岩田さんやマリオの生みの親である宮元さんだけでなく、横井軍平さんや前社長の山内さんにもちゃんと言及してる辺りこの本はしっかりとした取材や考察をもとに書き上げたんだなとか思いました。 この本で明らかになったDSやWii開発における思考はゲームの話に限らず色々な面でもいえるのではないでしょうか。 巻末の年譜を見るだけでも任天堂の歴史を大まかに知ることが出来ますよ。			
	7-307	300P (120分)		2012/10/30 12:29:50

ばず ☆☆☆☆	ＤＳやＷｉｉの誕生の裏事情などが分かってゲーム好きの自分にはとても興味深い１冊でした。			

	17-217	201P (120分)		2012/10/23 09:56:25

R2D2 ☆☆☆☆☆	第2章で任天堂・岩田聡社長がスティーブ・ジョブスよろしくE3檀上でデモンストレーションをしている写真(p.61)が印象的だった。身近な存在だった任天堂が、国内だけでなく世界に市場を持つ国際的企業であることに驚いた。 任天堂が外部からのインタビューを歓迎しないことを著者は本書中で述べているが、著者本人は現社長の岩田・前社長の山内など錚々たる立役者たちに訊いたり、「任天堂とアップルは似ている」ことについてアップル副社長に訊いたりと、そこを押して熱心に取材している様子が思い浮かぶ。			
	1-288ページ	288P (135分)	2章	2012/10/14 23:26:41

たきごはん ☆☆☆☆	「マリオ」「ゼルダ」の宮本氏、現社長の岩田氏など、一人ひとりにスポットを当てながら、任天堂の歴史を紐解いていく本。ゲームは人が作る、ということを実感させてくれる内容でした。（アトムの生みの親はみんな知ってるけど、マリオの生みの親はそれほど知られてないのを、僕はいつも不思議に思います） ゲームデザイナーの書くコラムやインタビューを趣味で読んでいるのですが、記者が取材して書いたものを読むのは初めてでした。任天堂の今までとこれからのことが、第三者目線で明瞭にまとめられていて、面白かった！ 立ち読みポイントとしては、「テレビの友チャンネル」の所を。ゲーム業界のノウハウが従来の家電を圧倒する、っていうのがちょっと痛快だったので。			
	75-243	168P (100分)	169-173	2012/10/06 02:12:58

TOPへ

奇跡のリンゴ

著者名	石川拓治	発行年	2008年
出版社名	幻冬舎	ページ数	192ページ
値段	1,300円	ISBN	978-4344015449
コメント	変わりもんの困りもん。津軽弁でカマドケシと呼ばわるそうな。 そのカマドケシさんが、変わりもんであるがゆえに成し遂げてしまった、とんでもミラクル無農薬リンゴ。 徹底的に現場主義、リンゴの木から一歩も離れずに語られる体験談がすがすがしい。なるほど、生態系を殺すことから農業って始まるんだね、と納得。 九年ぶりに白い花を咲かせたりんご園。木村さんと一緒にお花見をどうぞ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
umi ☆☆☆	白い花が一面に咲いたとき、本当に感動しただろうなと。 確かに無農薬りんごはできたけど、それに振り回され続けた家族はかわいそう…。それでも成功を信じ続けた木村さんの根性は相当なものだと思う。最後は根性だよ！っていう風に受け止めます。			
	13-261	249P (180分)		2012/11/09 04:51:40
圧倒的(晒され)犬 ☆☆☆	伊坂作品を多数撮っている中村義洋監督で映画になるらしいです。http://www.kisekinoringo.com/ それはさておき。 農業については全く知識がない人にも分かるように、無農薬リンゴがどれほどの奇跡かを説明しつつ、でもただの作り方紹介に留まらない。まあ作り方紹介だけだったらここまで受けないだろうし、人生哲学ぽいものがメインなんでないかという気もする。木村さんのキャラ自体が世の中で親しみをもって受け入れられやすいのではないか。 本筋にはあまり関係ないプロメテウスに関する話が一番心に残りました。 宗教じみているところもあるなーと思ったが、それを印すには余白が足りない。			
	5-260	256P (120分)	67	2012/10/21 22:05:35

TOPへ